降誕会―親鸞さまのご誕生日に―

五月二十一日は、親鸞さまのご誕生日（降誕会）です。各西教寺では、それぞれご誕生に感謝し、趣向を凝らしたご法座がつとまりました。

三津田支坊お斎のご報謝。

三津田支坊では、恒例のお斎が参詣者に無料で接待されました。今年からお参りしやすいように朝席終わりにしたせいか、ご満座には例年よりたくさんの参詣がありました。

長ノ木本坊では、本山中央相談員としてご活躍の季平博昭先生がお越しくださいました。インフルエンザや裁判員制度など、最新の問題についてお話くださったり、ティータイム（思い思いに語る時間）では、長年カウンセリングを学ばれているということで、見事な交通整理をしてくださいました。

また、参詣者はお聴聞の後、中庭を眺めたり、茅葺きの草庵や会館進徳殿でお抹茶を楽しみました。

茅葺きの草庵のある中庭を散策する参詣者。

蔵本通支坊は、増井信先生にお越しいただきました。長年学ばれた真宗カウンセリングを生かし、座談（話し合い法座）では、独自のワーク（一方通行の講義ではなく参詣者も参加する体験学習）「お念仏のワーク」をしてくださいました。編集者を含め参加者は大感激でした。また、ビンゴゲームに参加した子供たちへのご法話も、言いっぱなしではなく「お話を思いだそう（おさらい）」「タイトルをつけよう（主題）」「感想を言う」など、子供たちの受け止めや気持ちを上手に聞きながら、対話形式で進めていかれました。聞いても聞いていなくても時間が来たら終わりではなく、とても身になる進め方だなぁと感心しました。

長ノ木本坊でお抹茶のお給仕をして下さった皆さん。

子供も大人も分かるご法話

西教寺賞をゲットした西川さん。

また、30日は前川たえこさんと新屋まりさんのトーク&コンサートが行われました。釋水鵡こと前川たえこさんは、西教寺衆徒（西教寺所属の僧侶）で文筆家。さまざまな人生苦を、さまざまな人との出会い、仏法との出遇いを通して救われました。このことを何かの形でご恩返しをしたいと思っておられたようですが、前川さんを支え続けて来てこられたお母さまのご病気を機に、全国講演（花巡礼）を思い立たれました。お母さんに全国の花を見せてあげながら、全国の誰かのお役に立とうということです。30日は、出発式として講演会が開かれ「慈

愛の母に導かれて」と題してお話をされました。高松秀峰（広島仏教学院院長）さんのほか、宮尾登美子（NHK大河ドラマ『篤姫』の作者）さんや、石川洋（元京都一燈園代表・托鉢者）さんから推薦状が届きました。

また、シンガーソングライターの新屋まりさんは、水鳥さんと共通の知人であり、僧侶兼音楽プロデュサーでもある釋遊水（濱本）さんを通じて知り合われ、このたび水鳥さんのことを「白蓮」という歌にされました。コンサートではその「白蓮」の他「生かされて」など数曲を披露。浄土真宗はまだ初心者と照れながらも、構えず、ありのままの人生のところから味われた歌詞がとてもステキでした。

前川たえこさん

新屋まりさん

『生かされて』6曲入 1500円
【お問い合わせ】
niiya.mari@arrow.ocn.ne.jp

高林坊と湧永庭園

去る五月十二日、長ノ木本坊お経会を中心とした一行約四〇名は、安芸高田市高林坊に参詣しました。高林坊は仏護寺（現広島別院）と並び、安芸門徒ご教化の中心となった名刹です。この八月二十九日にご往生された前ご住職にも、大変良くしていただきました。その他、湧永庭園など観光、美土里町前湯治村で食事、温泉につかって帰りました。

高林坊本堂前でパチリ

壮年会御影堂参拝 京都ロハスな旅

十年の歳月を費やしてようやく完成した本願寺御影堂に参詣しようと、去る六月五日～六日、壮年会有縁の十五名は、インフルエンザ騒動をものともせず、一泊二日の旅行を決行しました。

親鸞聖人お得度の地、青蓮院でパチリ。（写真右）

定額給付金１万２千円で京都を往復できるＪＲ西日本パスを使って、財布にやさしく親鸞聖人のご旧蹟を巡拝。また、家庭廃油を使って動く京都の市バスで移動して環境にやさしく、そして、浮いたお金で高級ホテルに止まって老舗の美味しい物を堪能する、心と財布と環境にやさしいツアー。計算してみると全部で約２５９kgの温室効果ガスを削減できました。ロハスとは、Life of health and sustainability の略。「地球が持続可能であり、かつ健康的な生活」という意味。

安芸南組宗祖七五〇回お待ち受け法要

去る六月十九日、呉市文化ホールで、安芸南組六〇ヶ寺による宗祖親鸞聖人七五〇回会大法要のお待ち受け法要が行われました。会場の約千二百名は、新たに制定された宗祖讃仰作法のご縁にあい、作家五木寛之さんの講演に耳を傾けました。

これに先立ち、午前中に蔵本通支坊において記念帰敬式が行われ、百六〇名がお剃刀を受け、法名を拝受しました。

一同を代表して、豊田摩訶慧（西教寺総代）さんが法名を拝受、豊田久子さんが帰敬文を読まれました。ちなみに真宗では戒名とは言いません。